

神奈山・藤巻尾根山スキー

～ サイコーのブナ林パウダーツリーラン ～

【山城】 妙高・神奈山

【日程とコンディション】

2020年3月15日(日) : 入山時気温 0℃ 曇りのち晴れ

出発地からみた目標地方向はガスの中、この日の妙高の予報は曇りベースで、時々晴れ間もあり夕方まで天気はもちそうである。

関温泉スキー場積雪量 300cm

【メンバー】 坂倉 (CL、記録)、菊池 (SL、写真)、池田、田形、武田、飯郷 (会員外)

【行程】

関温泉休暇村スキー場からスタート (800m) 8:30—11:40 最高到達地点 (1,520m)

大休憩 12:15 —1,400m 台地地点まで滑走—12:30 北東尾根を 1,250m 地点まで滑走

—13:30 1,400m 台地まで登り返し— 登りルートに沿って滑走、下山開始—15:20

下山 関温泉休暇村スキー場へ (800m)



【概要】

・当日までの 1 週間は春の陽気の日が多く、標高の低い地域では融雪が進み山行計画エリ

アの選定に苦慮する。一方で前日 14 日は首都圏でも降雪があり、今回の山行は今季ラストパウダーか？と淡い期待も芽生える。7:30 頃妙高高原関温泉スキー場着、前日からの降雪で 5cm 程度の湿雪が積もっていた。我々以外に計 20 名程度、数パーティが入山している模様。(今後は休暇村の駐車場は使用せず、徒歩数分上にあるゲレンデ脇の駐車場を使用した方が良さそうだ。)



- 8:30 スキー場リフト脇から入山。尾根への取り付き部となる林道から藤巻尾根に乗り上げるまでの標高差約 200m が急登で、積雪量次第では藪が濃いため核心部（登り・下りともに）と言っても過言ではない。



いつもは少しでも楽に尾根に上がるため林道を右に回り込み取り付くが、今回は藪を警戒し記録が最も多いルートである橋を渡ってすぐの南東側からのアプローチを選択する。(結果的に楽だったのかは微妙) 新雪でリセットされた登路は綺麗で SL は写真撮影に余念がない。藤巻尾根は今シーズン 2 回目(初回は 1/25)だが、藪漕ぎ祭りだった前回と比較すると関温泉スキー場の積雪量は 180cm→300cm と増加しているが、それでも藪の濃さはそれほど軽減されているようには見えず先が思いやられる。



他のメンバーは早々にクトー（スキーアイゼン）を装着する中、私だけテストとしてクトーを装着せずハイクアップすることに。先行者のトレースで圧雪されツルツルになった



春の湿雪は急斜面などでシールの効きが悪い場面が多々あり、また、藪漕ぎで時としてアクロバティックな登りが必要となる今回のような山行ではクトーの効果は絶大で、他のメンバーにみるみる置いていかれその効果の大きさを改めて認識した。一人で勝手にテストと称し修行した末にスタートから1時間も経たないうちにへとへとに消耗したが、クトーは低温時のガリだけではなく、春スキ

ーでも有用であることが実感として得られたことは貴重な経験となった。(SL 菊池は、藤巻尾根山スキーツアーは今回5回目であり、2010年の初挑戦時には今回のルートで登高したが、その時には積雪量が十分であり、今回ほど苦労はしなかったが、その後は急登を避けるため、いずれも林道を進んで楽な東尾根から藤巻山経由での登降を選択していた。藤巻山経由のルートは積雪量が十分である例年では4月初め頃まではあまり苦労しなかったが、今年の1/25に関スキー場で180cmの積雪不足のため難行苦行であった。そこで今回は積雪も1月よりかなり多く、久しぶりに急登のこのルートを選択した。急斜面のトラバースや細尾根の藪漕ぎなど予想以上に苦労するはめとなり、今後はやはり十分な積雪の時に藤巻山経由を選択すべきであると再認識した。)



- その後藤巻山経由のルートと合流、先行の団体 Gr が休憩しており我々も休憩、集合写真を撮った。1,000m から上部の尾根上は快適なブナ林のハイクアップ。既に根開けが始まっている。薄曇りで時折ガスがかかる中、標高を上げる





につれ徐々にブナは巨木化していきその景色は幻想的で見事というほかない。この景色を見ることができただけでも来たかいがあったと言うものだ。1,400mからはオープン斜面となり、11:40、1,520mの急斜面手前地点でハイクアップ終了。肝心の雪質はというと、固い層の上に10cm程度の軽い新雪が積もっていてそれなりに気持ち良く滑れそうだ。

- ・大休止と滑走準備をしていると、ガスが薄くなり時折青空が覗きはじめる。(I田さん、カップラ何分で食べたんだろ？1分くらい



かも…) 天候回復は自分のおかげだとそれぞれが主張を始めているがともあれそろそろ滑りましょか(^^)

12:15 滑走開始 気温は-1℃、弱い風が吹きさすがにやや肌寒い。

今回の滑走は大きく3つのパートに分けられる。

- ① 1,520m-1,400m 台地までのオープンバーン
- ② 1,400m 台地-1,250mの北・北東斜面ブナ林ツリーラン → 台地まで登り返し
- ③ 1,400m 台地から下山地点まで登りルートに沿ってツリーラン

- ① は急斜面ではないもののオープンバーンであり、ところどころに固い箇所があるものの概ね快適で開放感のある滑走を楽しんだ。(前回は1,400mから上も積雪不足で藪が煩く不完全燃焼であった)



- ② と③はツリーラン。雪が増えブナ同士の間隔がしっかり開いている間をブナ林クルージング、ツリーランの醍醐味を味わえた。

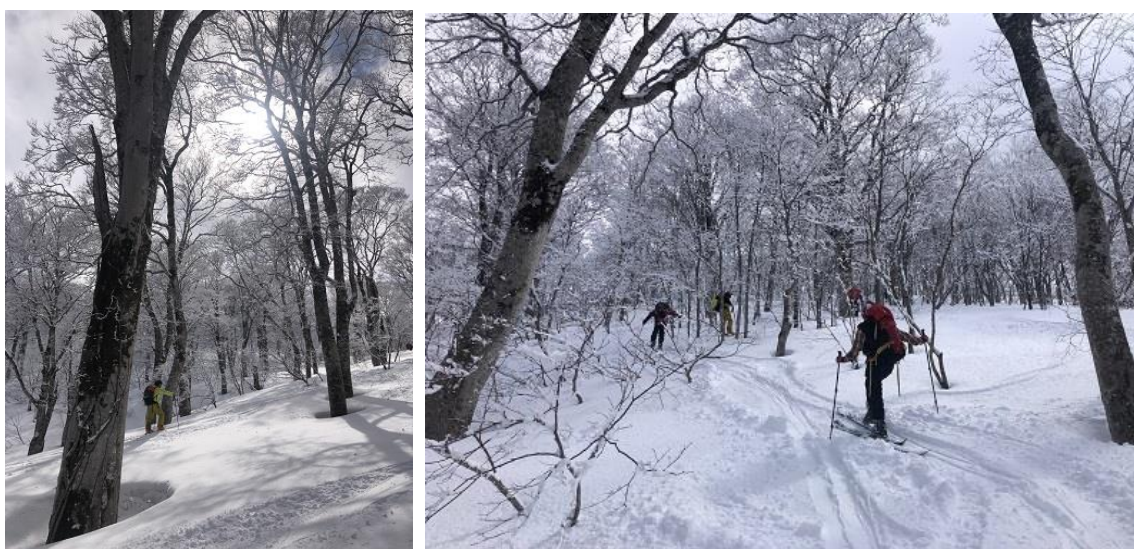


特筆すべきは②の雪質で、薄いながらも厳冬期にも匹敵するパウダーがノートラックで温存されており気持ち良くシュプールを刻むことが出来た。さすがは百戦錬磨のSL、穴場は百も承知なのである。

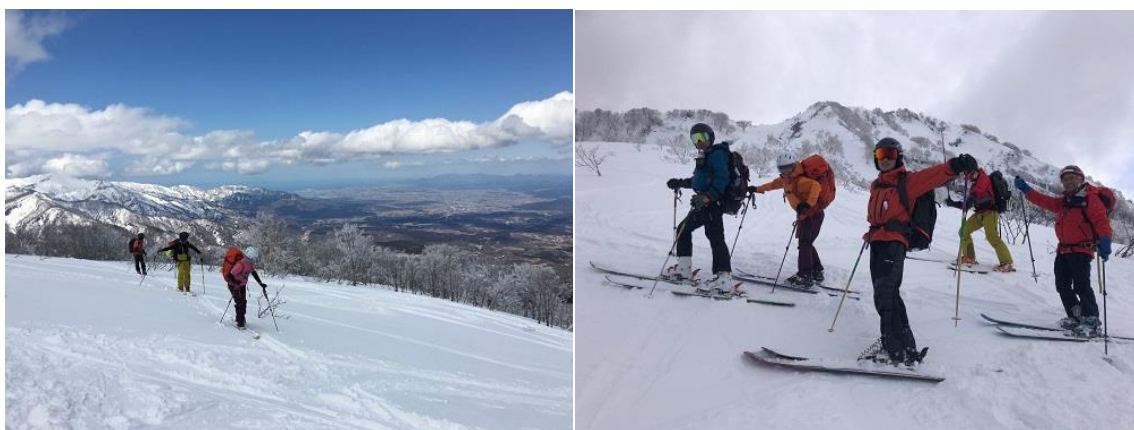
谷間に響き渡る「ヤッホー！」やら「ハイホー！」やら「すんばらしい！」等の奇声もいつもの5割増し？で、めいめいが大満喫していた。(T形さんは無声で大満喫)

累計の滑走距離は必ずしも長くないものの、今季屈指の滑りごたえのある満足感の高い滑走であった。会心の滑走を堪能した後の登りはこれまた楽しみです。

この北・北東斜面は台地からの入り口がやや藪が濃いのが、次第に適度に間隔のあいた素晴らしいブナ林が広がり巨木が多く。昨年初体験しているため、今回も容易に楽しめたが、このエリアに侵入する山スキーヤーは我々以外にはなく、正に「とっておきの秘密のパウダーエリア」である。



台地まで登り返し振り返ると直江津港の向こうに日本海が望まれた。さあこの後は、登路の滑走である。先行者が多くギタギタであろうが、わがPは素晴らしいブナ林のノートラパウダーランを楽しんできたので余裕の表情で記念撮影した

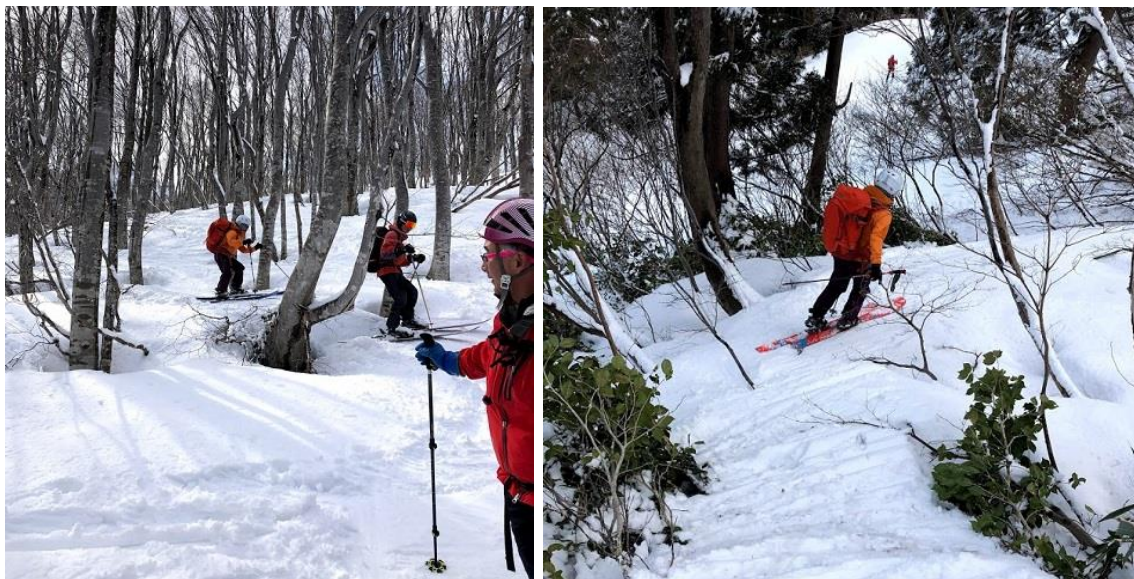


下山路の前半はやや荒れていたが、まだ滑りやすいパウダーが温存、できるだけノートラインを選んで皆さん楽しんでいた



・尚、1,100m から下部は東斜面かつ気温上昇の影響で湿雪重雪と化しており、消化試合を通り越しハードな修行系滑走となった。(登りは一人修行でしたが下りは全員で修行^^) 1,000m 付近の分岐からは、登りルートはとても滑りに適さないとの判断から使わず、尾根回り込み方向のルートを選択する。こちらはかなり厳しい状況であり修行には変わり

なかったが…。

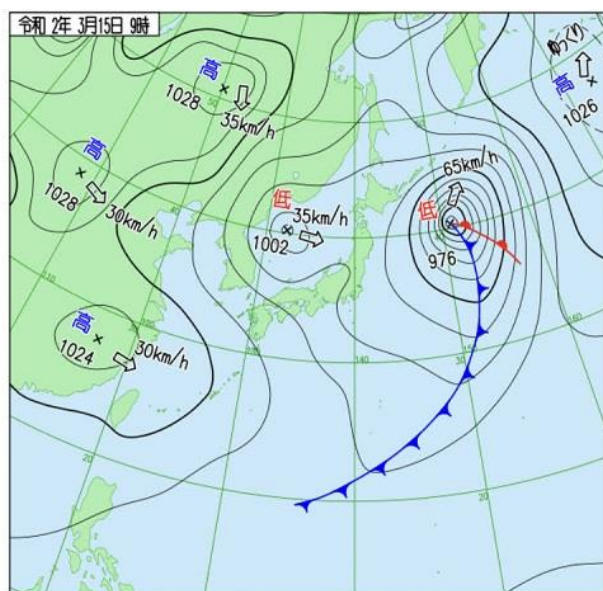


- 15:20 下山 休暇村の気温は+4℃。

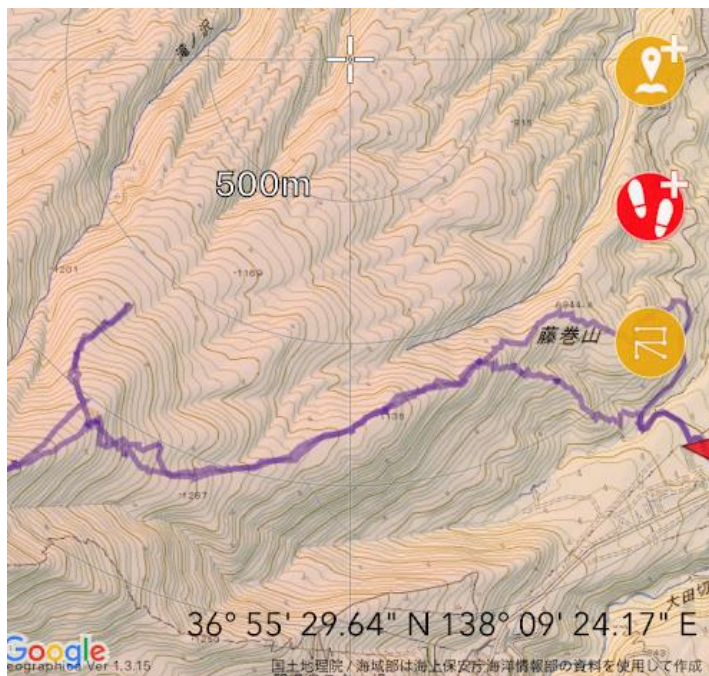
このまま春に向かって気温上昇が続くと、上部は当面は問題無なく滑走出来そうだが尾根の登り下りがかなり厳しくなるであろう。

下山後は休暇村で入浴。移動無しのおフロは楽チンだ。帰路に着くなり絶妙のタイミングで雨となる。

- 最後に、今回初めて CL を務めたがご想像通り SL のお師匠さんに全て取り仕切って頂いた。サイコーの山行に仕上げるところはさすがの一言である。常に根拠に基づき判断を下すところは山スキーに限らず全ての山行に通ずると思われ、同行の都度勉強させていただいている。



私かというと名ばかりとは言え初めて CL を務めることで、常にパーティ全体の状態に意識が向かう等、これまで経験したことのないスタンスで山行に参加出来たことはとても刺激的で有意義であり、色々な意味で印象深い山行となった。これから一歩ずつスキルアップしていきたい。



20200315 藤巻尾根

距離	9.4km
記録時間	07:10:06
最低高度	777m
最高高度	1,535m
累計高度(+)	1,195m
累計高度(-)	1,204m
平均速度	1.3km/h
最高速度	31km/h
消費カロリー	2414kcal
座標精度	★★★★★
接続率	100.0%